

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	アジアコホート連合 2009 年東京会議
(英語名称)	Asia Cohort Consortium Meeting in Tokyo, 2009
【提案者氏名、役職、 機関・部署名】	井上真奈美、 国立がんセンター がん予防・検診研究センター 予防研究部 室長
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催 (2) 研究者の派遣・受入れ
【実施期間】†	2009 年 12 月 3 日～ 2009 年 12 月 4 日 (2 日・ヶ月間)
【実施場所】†	国立がんセンター研究所セミナールーム
【参加国・地域】†	韓国、中国、シンガポール、台湾、マレーシア、インド、米国等 15ヶ国・地域
【事業概要】	
<p>本会議は、アジア疫学研究関係者を中心に発足したアジアコホート連合 (Asia Cohort Consortium) の活動を推進していくために開催される会議で、2009 年 12 月 3-4 日に東京において開催する。</p> <p>アジアコホート連合は、アジアにおける質の高いコホート研究 (人間集団を対象とした追跡研究) の構築と、既存コホート研究相互の協調により、アジア人特有の環境及び宿主関連要因とがんを含む様々な疾病との関連やその病因の解明をめざしたアジア疫学研究集団のネットワークであり、2004 年 11 月に発足した。</p> <p>これまで定期的に会議を開催して、その使命や具体的な研究の推進方法について議論してきた。しかし、特定の財源を持たず、メンバーの大半がアジア人で占められることから、これまでの会議においては、参加者は、日本や韓国、米国など旅費調達のできる一部の国からの参加者に限られ、実質的な議論を会議の場で十分に行うことが不可能であった。</p> <p>現在までに、いくつかの具体的研究プロジェクトが提案され、既存コホート集団データの統合により容易に実施可能な、肥満度と死亡リスクとの関連に関する統合解析が進展しつつある。一方、アジア人の食習慣をより正確に推定・評価する栄養評価システム開発のように、現在、既存システムが存在しないため、早期の実現が期待される基盤整備的プロジェクトは、実質的な研究内容の討議の場である会議に参加できるメンバー及び国が限られていたことにより、具体的進展がなかった。このような基盤整備を目的としたプロジェクトには、各国の現状をよく知る専門家の研究計画立案への参加と討議が不可欠であり、その実質的推進には、アジア各国からの専門家の会議への参加を一層促す必要がある。</p> <p>本東京会議をきっかけとして、アジアコホート連合の基盤整備的プロジェクトを機動的に推進・実現させ、アジアに共通した疾病問題に取り組むためのアジア諸国間疫学研究ネットワークの構築と協調体制の実現に大きく貢献するため、この度、本機動的国際交流事業による支援を提案する。なお、本東京会議では、特にアジア人におけるリスク要因を疫学的に評価するために不可欠な基盤である、共通栄養評価システム開発を優先的推進議題と位置づけ、討議する。</p>	